



私のひとりごと

福耳

「いらっしゃいませ〜。」と、明るい声と笑顔で向かえてくれた。なんと活気のある店なのだろう……。何かが違う……。何かが！ 昼食に立ち寄った「餃子」で有名なチェーン店での出来事である。

その日の朝は、家内からの「車落としてもた〜。」との電話から始まった。昨日からの雪で道路には積雪があり、スリップして側溝に車を落としたとの事。幸いにして前の片輪だけだったが、車の腹がつかえて引き上げるのは困難な状況なので、レッカーを呼ぶ事に。30分ほどで駆けつけてくれたが、レッカー屋さん曰く、「今日は朝から電話が鳴りっぱなしで、断り続けているんですが、現場から帰って、給油を済ませた所の電話だったので来る事が出来ました。タイミングですね。」との事。車は5分も掛らずに引き上げられた。タイミングの良さに、レッカー屋さんにも、神様にも心よりのお礼を申し上げる。

その日は、奈良県の知人宅にお邪魔する予定があり、遅れた時間を取り戻すべく、急いで走っている道中、京都あたりで立ち寄った店での事である。「何名ですか?」「2名です。」「では、カウンターでお願いします。」と案内された。カウンターからは、厨房が丸見えである。調理人5名と、女性スタッフ4名で切り盛りしている。ちょうど昼時だった為、店内は満席。次々とオーダーがかかる。一人の男性が、オーダー用紙を見ながらマイクで注文を掛け、それぞれの持ち場の調理人達が、息を付く間もなく調理し続ける。女性スタッフの目は少々泳ぎがちだが、笑顔を決やさず敏速に、かつ正確に動き回る。

私が衝撃を受けたのは、お客様がピークに達したと思われる時、あまりの忙しさに、それまでマイクで指示していた男性も調理し始めたが、その目線と心は、料理半分、店内半分に配られている。驚く事に、厨房にいる全員がお客様が帰られる度に、「ありがとうございました〜。」と声を掛けているではないか！ 横目をふる時間もないくらい忙しい中に、どこにそんな余裕があるのだろう……。よくスタッフを見れば、ほとんどが良い耳をしている。ちょうどゾウが耳を広げた様で、人の話が良く聞けそうな福耳である。



一般的に福耳とは、耳たぶが厚く大きな耳と言われるが、本来は、人の話をよく聞くから福が来るのであり、福耳の意味合いはそこにあると教えられる。つまり人の話を素直に聞く人は運命もよろしく伸びるのであり、形はどうであれ福耳なのである。さすがに「餃子」で日本一の店である。どの様な状況でも対応出来るマニュアルと、お客様に対する心使いはよく訓練されており、神業にも近いと思われるが、それもオーナーの熱き思いが成せる事であろう。

新しき年が始まった年頭にあたり、やる気と熱き想いにさせてくれるには、十分すぎる出来事であった。

ではまた来月もお会いしましょう。
今月も最後まで読んでいただき……、

あーがしう
ございました!!

